

壊れゆく“若者たち”

File.55 デジタル症候群 ～現代版痴漢 「AirDrop痴漢」の驚異

文 石井 通明 text by Michiaki Ishii

タイトルから「何の話なのか!？」と思われてしまうかもしれません。

まずはAirDropについて触れたいのですが、これはiPhoneに標準搭載されたファイル共有機能のことを言います。このAirDropを利用すれば、メールやSNS等を使わなくても写真や動画の送信が行えるというものです。iPhoneで撮影した写真や動画を友だちと共有できるといっても便利なものです。他にも共有できるものには、連絡先・位置情報・App Storeのアプリなどがあります。

この便利な機能は基本的に「物理的に自分のすぐ近くにいる人」を行えます。自分のiPhoneの設定でAirDropを「自分の連絡先のみ」と「すべての人」から受け入れると設定ができるのですが、この「すべての人」に設定しておく、近くにいる人から一方的にデータを受け取ってしまうのです。データを受け取る設定にしておいた場合、自分のデバイス名(iPhone)に登録している名前が近くににいる他人に知られてしまうのです。「AirDrop痴漢」とは、この点を突いて、異性の名前のついたiPhoneに勝手に卑猥な画像を送りつけるといった



Profile
東京都大田区生まれ。
英国ウエールズ大学MBA(経営管理修士)。
日本交渉学会会員。ハーバード流交渉学・消費者行動心理学・コンフリクトマネジメントを研究。日本コーンセンター協会情報調査委員。
(株)グッドクロス取締役COO
長年コーンセンター運営に携わり、人と人のコミュニケーションについての研究を進めている。思いやりのコーンセンターを展開。
beccall1031642012088
[http://www.beall.jp]

嫌がらせ行為のことなのです。

AirDropでデータを送れる範囲は約9mになるそうで、たとえば電車の中のような公共の場で「AirDrop痴漢」を行う人間には、共有可能な相手の名前しかわからないものの、卑猥な画像などを送ったときの反応を楽しむといえます。昔、コートをもった怪しげな男性が、突然道を歩いている女性に自分の裸をさらして、その反応を喜ぶという事件をよく耳にしましたが、まさにこのコートの男性に代わる現代版痴漢と言えます。これを防ぐ方法は、普段AirDropを「受信しない」設定にしておき、必要なときだけ「連絡先のみ」に切り替えて使うことです。

スマホがドンドン便利になっており、こういった「情報の共有」が円滑になってきています。一見、便利になったように思えますが、使いこなせない人が

らしたら、自分の情報が勝手に流出するかのようなりスクも兼ね備えています。しかも、その認知のない人の多くが「最初から設定されていたので気づかなかった」と言います。これは驚異でしかないように思えるでしょう。注意してください、と言われても、何を注意してよいのかわからないのです。

